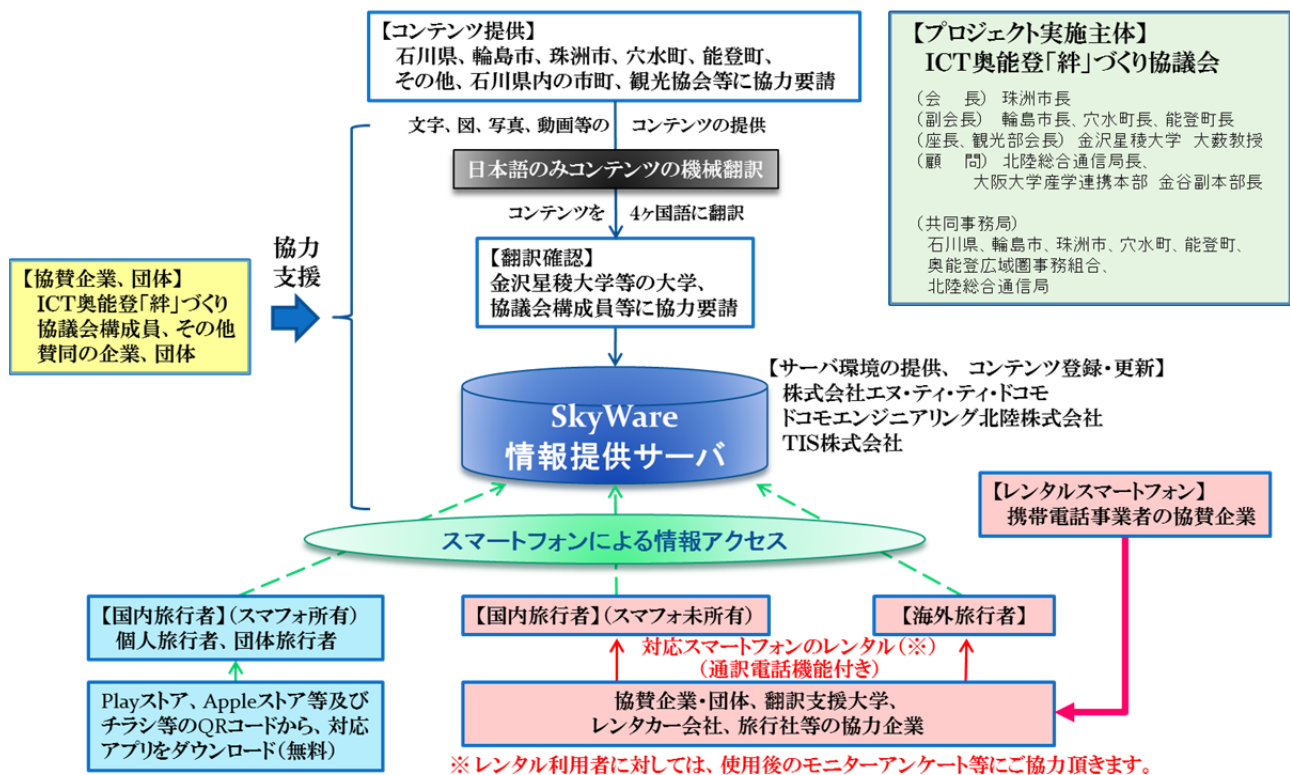


(別紙)

スマートフォンを活用した観光情報提供システムのモデル実験の概要

1. 実施主体
ICT 奥能登「絆」づくり協議会
2. 実施エリア
輪島市、珠洲市、穴水町、能登町等
3. 実施スケジュール（予定）
平成 25 年春～8月頃
4. 実験の概要
 - (1) 多言語、AR（仮想現実）機能を用いた観光情報提供モデルの構築
 - (2) 対応スマートフォンのモニターへのレンタル
 - (3) 利用者アンケート、アクセスログの分析等による有効性の検証
 - (4) 実用サービス実施のためのビジネスモデルの検討
5. 実施体制（予定）



【図 1 実施体制】

6. 想定される導入の効果

現状



【多言語看板の例(富士山五合目)】

大きな看板を複数設置しようとしても・・・

- ・ 景観が損なわれる
- ・ 設置費用がかさむ

という問題があり、「現地」における情報提供体制は十分に整っていない。



克服困難な
課題を解消

プロジェクトの目標

「スマートフォンでスマートに観光」の実現



【スマートフォンでの情報タグ表示例】

【スマートフォン向け観光情報提供システムの導入効果】

- ・ 景観を損なうことなく、多言語で情報提供が可能。
 - ・ 低廉に、非常に多くの施設等の情報提供が可能。
 - ・ 観光旅行者は興味のある施設等に写真を撮るようにスマートフォンをかざすだけで簡単に情報入手可能。
 - ・ イベントやお祭り等の季節行事に応じた情報提供により、生きた情報発信が可能。
 - ・ アクセス記録から観光旅行者動向の分析が可能。
- 誘客力の向上、リピーターの増大に寄与

【図2 スマートフォン向けの観光情報提供システムの導入効果】

【参考】ICT 奥能登「絆」づくり協議会の概要

ICT 奥能登「絆」づくり協議会は、北陸総合通信局が平成 22 年度に開催した情報通信利活用先進地域「奥能登」を目指す調査研究会報告を受け、奥能登 2 市 2 町（輪島市、珠洲市、穴水町、能登町）の地域間連携による観光、医療、高齢者見守りの 3 つの ICT 利活用プロジェクトの具体化に向けた調査、検討を行う協議会として、平成 23 年 10 月 17 日に設置されたものです。（平成 24 年 10 月 10 日現在、34 団体で構成。）